

◇深澤 均 君

○議長（高橋 猛君） 最初に、13番、深澤 均君の一般質問を許可いたします。深澤 均君、登壇願います。

（13番 深澤 均君 登壇）

○13番（深澤 均君） それでは、通告に従って質問させていただきますが、質問の中には時期的にまだ検討中のものもあるかと思えます。よろしく願いいたします。

町では、子供たちの子供たちにとって望ましい教育環境を整えるということを目的に、美郷町学校再編計画に従って、小中学校の統廃合を進めているところであります。今年度、新生六郷小学校の誕生を皮切りに、半年後の来年度、24年度は町内3中学校の統合、翌25年度には仙南、千畑地区の小学校の統合ということで、在校生のみならず未就学児の家庭の関心も高く、希望や期待がある反面、少なからず不安もあるようであります。その不安の1つに、子供たちの通学があるわけですが、9月発行の広報によりますと当局により保護者説明会が開催され、さまざまな意見交換がされたようでございます。近年、子供たちの登下校時に起きる不審者による犯罪はもはや他人事ではなくなっており、交通事故等の危険も含め、保護者の不安は理解できるところであります。

私は、子供たちの安全な通学を確保するためには学校、児童、生徒、保護者の連携はもちろんのこと、地域住民のサポートも必要であり、そのためには通学の実態を広く町民に知っていただくことも大切であると思っており、きょうはさまざまな視点から当局の考えを伺ってまいります。

まずは、美郷中学校についてですが、旧3町村の統合中学校ということで、その通学距離が大幅に拡大されます。これに対して、町では遠距離対策ということで夏は6キロメートル、冬は4キロメートル以上の生徒をスクールバス通学で対応する計画ですが、町内では一番遠い生徒、あるいは集落で何キロメートルぐらいあるのか。また、通学所要時間はどれくらい見ているのか、お伺いいたします。

次に、仙南地区、千畑地区は旧町村境を超えた通学路が必要になりますが、街路灯、防犯灯、道路幅など、どちらかといえば未整備なところが多いように感じます。そこで、通学路の安全確保と決定までにどのような手順で進められているのか伺います。また、保護者から要望がある部活終了時に対応したスクールバスの運行の考えはあるのか、伺います。

次に、小学校児童の通学についてであります。さきの3月定例会において座席シートのヘッドレストのないスクールバスの安全性について指摘させていただきました。が、今もなお改善のなされないまま、頭はおろか子供によっては肩まで座席から出し、運行されている状況にあり、

万が一のときには子供たちを守れないと思うのですが、スクールバスの安全についてどのような所見を持っているのか伺います。

また、小学校の学区についてですが、これまでの学区を引き継ぐものなのか、通学距離や保護者の意向などによる学区の変更は考えているものなのか伺います。

最後に、子供たちの登下校の安全を見守る「見守り隊」についてであります。「子供見守り隊」というステッカーを貼った車が町内のあちらこちらで見受けられ、子供たちを危険から守るといふ会員の心の温かさを感じるところであります。しかし、ある会員が車から離れて、子供たちの危険な遊びを注意したところ、保護者に逆に不審者扱いされて非常に嫌な思いをし、さらにその誤解を解く、証明するようなものが何もなかったことを非常に残念に思っ、悔やんでいるお話がありました。このようなトラブルを防ぎ、その善意が生かされるよう、一目で「見守り隊」とわかるものが必要かと思いますが、いかがでしょうか。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。教育長、登壇願います。

（教育長 後松順之助君 登壇）

○教育長（後松順之助君） ただいまの深澤議員のご質問にお答えいたします。

初めに、平成24年度に統合します美郷中学校への通学距離の一番遠い生徒の集落及び所要距離、時間についてですが、統合中学校開校準備委員会では通学方法を原則徒歩、自転車、スクールバスとすることを検討しております。ご質問については、この作業プロセスのスクールバス乗車対象者抽出作業の中で既に調査しています。これは冬期における通学も考慮し、現状において最も安全に通学できるルートを想定して算出したものです。

統合後における最遠距離、つまり最も遠い地域は千畑地区の黒沢であり、12.3キロメートルほどとなります。また、この距離を自転車で通学した場合の美郷中学校への所要時間は、個人差、上り坂等の条件も考慮し、時速12キロメートルから16キロメートルで走行した場合、45分から60分ぐらいと見ております。なお、スクールバスを利用した場合は各停留所での乗降も含め、最長で乗車時間40分ほどと見ております。

次に、通学路の安全確保と決定手順についてですが、通学路につきましては現在該当する生徒のすべての家を地図に落とし、どこを通学路にするか検討しているところです。その決定手順は次の2点を考慮し、決定したいと考えています。1点目は、路側帯や信号の有無、街路灯や防犯灯などの道路の安全性です。2点目は、学校までの距離です。なお、スクールバスの運行経路につきましても、同様に安全面を第一優先にして、策定中です。案が確定し次第、開校準備委員会

に提案し、保護者等の意見を取り入れ、決定したいと考えています。

その後、町としては通学路マップを作成し、広報などにより住民の方々にも周知し、地域を挙げて子供たちを見守る体制をつくっていきたいと考えています。また、統合中学校においても開校後すぐに安全教室を実施させ、交通安全遵守の精神を培っていきたいと考えています。

なお、主要通学路における街路灯等の整備につきましては、町長部局と協議し、計画的に整備していきたいと考えています。

次に、部活動終了後のスクールバス運行についてですが、7月に行いました保護者説明会でもお話しさせていただいていますが、統合後の部活動の施設が離れた場所になる部もあることから、生徒をできるだけ午後8時までは帰宅させるよう、帰宅用1便を運行する予定です。

次に、ヘッドレストのないスクールバスの安全性についてですが、3月定例議会においてスクールバスとしての使用目的で登録も得ていることから、安全性は確保されているという認識でした。しかし、さらに安全性を確保したほうがよいとのご提起がございましたので、早速対応を検討させていただいたところ、現車両を製造工場に持ち込み、現車確認の上でないと見積もりが取れないことに加え、工場の所在が福島県白河市ということで、原発の影響によりバスの移動や工場の受け入れ体制等の環境が整っていないため、現在対応ができております。係る事情により即刻対応できない点、申しわけなく思っています。今後、工場の体制とバス運行に支障のない環境が整い次第、見積もり対応の予算措置をお願いしたいと思っています。

なお、車両の改善が図られるまでに、直接携わるバス運転業務受託業者及び運転者用のバス事故防止対策マニュアルを策定しましたので、これを徹底させ、安全・安心な運行をしたいと思っておりますので、ご理解いただきたくお願い申し上げます。

次に、小学校の通学区の変更については、現在のところ考えておりません。現在町は、家庭の事情により通学区の変更を希望する保護者や子供の意見を聞くなどし、妥当と判断した場合には通学区の変更を認めています。したがって、現在のところこの制度で十分に対応できるものと考えております。

次に、子供たちの通学を見守る「見守り隊」について、車だけでなく会員と一目でわかるものが必要ではないかとのことですが、通学を見守る「見守り隊」ボランティアは現在552名、協力車両1,038台の登録をいただき、通学路の安全確保を行っていただいております。また、協力車両には見守り隊ステッカーを表示し、その車両が通行することによって不審者対策において抑止効果につながっています。このほかに、スクールガードリーダーが直接児童に巡回指導を実施しております。

地域を挙げて安全をサポートしていく体制を考えた場合、見守り隊は非常に効果的な組織です。学校においてもPTAの校外指導の活動も充実してきており、今後は見守り隊活動に加えて安心・安全メール整備を一層推進させ、充実させていきたいと考えています。指導に当たられる方が不審者等の誤解を持たれないように、必要な方へIDカード方式の身分証明書を交付し、悪用されることのないような管理手順を検討させていただきます。

以上であります。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。深澤 均君。

○13番（深澤 均君） ただいまのご回答、ありがとうございました。

私自身、通学にも非常に関心を寄せてございまして、と申しますのは私は千畑中学校まで一番距離のある羽貫谷地部落であります。3人の子供たちの通学では大変苦勞した経験もありますし、さまざまな出来事もありました。同級生の家の車に乗せてもらって事故に遭って、むち打ち症になったこともありました。家に急用ができて、下校時に子供を迎えに行ったところ、どこの通学路を歩いて走っているのかわからず、見つけ出すのに大変大慌てしたことも思い出したところがあります。

先ほどの説明によりますと、黒沢地域で12.3キロメートルということで、私の家から中学校までのほぼ倍近い距離がございまして。距離が長くなるほどいろいろな危険やリスクが存在していると思いますので、いろいろな面で万全を尽くして行ってもらいたいと、そういうふうに思っております。

それから、部活対応の帰宅便を1便走らせるというご回答でございました。何分、暗い中での帰宅となりますので、バスから降りた後自宅までの安全も確保していただくようお願い申し上げます。

それから、ヘッドレストのないスクールバスの対応でございましてけれども、この後準備が整い次第改善していただくというようなことではございますので、その方向でよろしくようお願い申し上げます。今、乗用車の部分においても、シートベルトの数だけヘッドレストのつく時代でございますので、自治体としては住民の安全を最優先に考える立場でありますので、交通安全の率先垂範という立場でも、ぜひともそういうふうをお願いしたいというふうに思っております。

それから、最後の子供見守り隊についてでございますけれども、私は車で見守るといふ、その抑止力効果というのは確かに十分にあると思います。ですが、子供と同じ目線で見守るといふ視点も大事なのかなど。例えば、散歩している方々からも見守り隊というような立場でご協力いただければ、裏通り、あるいは公園などの見守りなどもできるのではないかと、むしろそちらのほう

が危険が多く、より効果的ではないかと、そういうふうには思っておりますけれども、いかがなものでしょうか。お答え願います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。教育長、自席でお願いします。

○教育長（後松順之助君） それでは、一番最後の部分につきましてお答え申し上げたいと思います。

各学校では、PTA活動としてかなり、特に小学校では見守り隊活動が活発であります。一例を挙げますと、千畑南小学校では年度の終わりに1年間の見守りありがとうという感謝集会を行います。これには、見守り隊として活躍した大勢の方々にご参加いただいて、お互いに交通安全はもちろんであります、安心・安全な方向に行きましょうというようなことを確認する会ですが、こうした会を紹介申し上げながら、各学校でできる範囲でそれぞれの地域のお力をおかりしながら、子供たちの安心・安全に努めてまいりたいと思っております。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。深澤 均君。

○13番（深澤 均君） 質問ではございませんけれども、一言申し上げて終わりにしたいと思っております。

先日、別の用事でありましたけれども教育長を訪ねたときのことでありましたが、教育長みずから通学路を自転車で実際に走り回ってきたというところを訪ねました。それぞれの立場で一生懸命取り組んでいることを感じたわけでございますけれども、これからもさまざまな視点から意見を出し合って、子供たちを危険から守ることが大切であると考えます。引き続き安全な通学への取り組みをお願い申し上げまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（高橋 猛君） これで、13番、深澤 均君の一般質問を終わります。